

1 : 救急処置① (小学校)

| | | | | |
|-------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---|
| 取組内容 | テーマ | 感染症対策を念頭においた救急処置～いつもニコニコ保健室～ | | |
| | 取組に至った経緯 | <p>保健室は、外科的、内科的処置を必要とする児童が集う部屋である。そのため、怪我で来室した児童、処置をする養護教諭や教員を感染症から守るため以下の取組を行った。</p> <p>①保健室の隣室を第2保健室に配置換えをし、第1保健室を外科的処置、第2保健室を内科的処置の部屋と設定</p> <p>②保健室出入り口に手指消毒の設置</p> <p>③消毒が容易にできる物品や使い捨て物品の積極的使用</p> | | |
| | 実施時期 | 年間 | 補足資料 | 有 |
| 成果と課題 | 成果 | <p>①咳や発熱等の症状がある児童と怪我をした児童が同時に来室した場合でも、部屋を分けたことで安心して(濃厚接触等の心配をしないため)対応することができた。</p> <p>②声掛けなしに児童自ら手指消毒を行うことができた。</p> <p>③養護教諭が消毒をしている姿を見て、安堵の表情を見せる児童がいた。</p> | | |
| | 課題等 | <p>①児童が第2保健室で休養している時は、濃厚接触者とならないように、部屋の外から見守りをしている。そのため、児童の異変に気が付きにくい。</p> <p>②③感染症対策物品購入のための予算の確保(現在は市教委からの物品提供やコロナ対策予算計上)がいつまでご提供いただけるか不安である。</p> | | |



感染症対策を念頭においた救急処置 ～いつもニコニコ保健室～

With コロナ時代の保健室。手指消毒の設置や第2保健室の様子を、本校の感染症予防マスコット「てまけん」と共に紹介する。

①保健室入り口の手指消毒

保健室の入り口にアルコール消毒を設置し、入室の際に消毒をするよう促している。

木のぬくもりで温かみあふれる消毒スタンドは、日頃から児童・教職員の健康を気にかけている校長先生の手作りである。

設置場所は、保健室の出入り口、保護者や来校者を迎える昇降口や職員室など校内各所に設置している。



高さが90cmのため、
手指消毒しやすい

「てまけん」の紹介

て：てあらい ま：マスク

けん：検温・健康観察

感染症予防のマンネリ化に新しい風を吹き込みたい！そんな思いで、感染対策の重要な要素を取り入れたキャラクターを作成した。イラストが得意な事務職員に依頼をし、「てまけん」の誕生！

教職員が自分の持ち味を生かして感染症対策に取り組んでいる。



②第2保健室のベッド



消毒可能なビニールレザー（耐アルコール性）タイプの処置台をベッドに使用している。枕や布団も速乾タイプのものを使用し、すぐに消毒、洗濯をしている。

③第2保健室の衛生グッズ



使い捨てビニール手袋も常備し、突然の嘔吐や消毒時に使用できるように机の横に吊りさげている。

児童用机を有効活用して【対応便利机】を設置した。体温計、パルスオキシメーター、ペーパーティッシュ、アルコール消毒、ゴミ袋、メモ、ペンを常備し、いつでも・教員の誰もが使用できるように整えている。

1 : 救急処置② (高等学校)

| | | | | |
|-------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---|
| 取組内容 | テーマ | 救急処置における感染防止対策の準備 | | |
| | 取組に至った経緯 | <p>本校では月に数回、校内で発生した傷病者のところへ養護教諭が駆けつける現状があるため、養護教諭は常日頃、対応に必要なものを携行し、校内には救急処置セットを設置している。コロナ禍では特に熱中症の生徒の対応が増加し、嘔吐する生徒も例年の倍以上であった。</p> <p>対応の際は、傷病者の状態によってはマスクを外させる（或いは生徒は既にマスクを外している）ことが多い。また、正面から行う処置は避けたとしても、緊急時の傷病者の声は聞き取りづらいことが多いため、養護教諭が傷病者に顔を近づけざるを得ない状況がある。</p> <p>今回、感染症に対する標準の予防策の観点から、養護教諭の携行品の見直しを行った。</p> | | |
| | 実施時期 | 年間 | 補足資料 | 有 |
| 成果と課題 | 成果 | <p>これまでの携行品に、防護メガネとマスクを追加した。養護教諭が校内のどこにいても、傷病者が発生した連絡が入った際は、すぐに駆けつけ、少しでも感染リスクを減らしながら対応できている。</p> | | |
| | 課題等 | <p>常日頃身につけるものであるため、大きさや重さ、自校の実態等を考慮し、携行すべきものを厳選する必要がある。</p> | | |

【補足資料】 1 : 救急処置② (高等学校)

救急処置における感染防止対策の準備

～養護教諭が感染症に対する標準の予防策のために携行（着用）しているもの～



【携行しているもの】

- ・ポシェット…手袋、人工呼吸用携帯マスク、嘔吐袋、マスク※1)、防護メガネ、携帯用消毒薬

【着用しているもの】

- ・マスク
- ・白衣…ロッカーには常に予備を数着用している

※1) さいたま市消防局救急課の心肺蘇生法実施要領・追補版（令和2年7月1日改定）にて、『傷病者発見時には（可能であれば）救助者の口と鼻をタオル、マスク等で覆った後に「反応の確認」を実施』と明記されているため。また、マスクを着用できる状態の生徒には着用をお願いするために準備。

1：救急処置（高等学校）

| | | | | |
|-------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---|
| 取組内容 | テーマ | 令和3年度修学旅行における生徒・家族の発熱等の風邪症状発生時対応マニュアル | | |
| | 取組に至った経緯 | <p>令和2年度は中止となった修学旅行の代替行事を実施するにあたり、新しい生活様式を踏まえた感染症対策の徹底を図るとともに、学校行事参加にあたり「生徒・家族の発熱等の風邪症状発生時対応マニュアル」の作成が大前提となると考え、作成した。</p> <p>事前に参加の判断基準及びその対応を想定しておくことは、とても重要である。</p> <p>なお、このマニュアルは、生徒のみならず、引率する教職員にも適用している。</p> | | |
| | 実施時期 | 令和3年6～7月 | 補足資料 | 有 |
| 成果と課題 | 成果 | <p>保護者の参加同意書をとる際にも、この対応マニュアルを提示し、生徒、保護者、教職員の共通認識を図ることができた。</p> <p>また、対応時の担当者及び連絡系統を明確にしたことにより、速やかに情報共有することができた。</p> | | |
| | 課題等 | <p>今回の宿泊地は東北方面ということや本校の実態等から、発熱時等の対応はマニュアルどおり「早目の早退措置及び早退方法」としたが、この対応については、学校の実態に合わせて検討する必要がある。</p> | | |

令和3年度 修学旅行における生徒・家族の発熱等の風邪症状発生時対応マニュアル（〇〇高等学校）

| 月/日(曜日)・日程 | 対象者 | 本人・家族の症状等 | 本人・家族への対応 | 担当者 |
|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|-------------------------|
| 3年次 | 【留意事項】 出発の前日や当日に市販の風邪薬や解熱剤等を使用し、解熱しないこと | | | |
| 月 日() 以前 | 本人 | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | 医師の診断を受ける。 | 担 任 |
| | 家族 | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | できるだけ医師の診断を受けていただく。 | |
| 月 日() 前日 | 本人 | 濃厚接触者 | 不参加 | 担任 年次主任・管理職 ・養護教諭 |
| | | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | 医師の診断を受ける。 | |
| | 家族 | 濃厚接触者 PCR検査「陰性」 | 参 加 | |
| | | 濃厚接触者 PCR検査「結果待ち」 | 不参加 | |
| | | 濃厚接触者 PCR検査「陽性」 | 不参加 | |
| | | 発熱等の風邪症状があり、感染が疑われる場合・不安を感じる場合 | 不参加 | |
| 月 日() 一日目 出発時 | 【留意事項】 出発前の体調確認により、学校が体調不良と判断した場合は、直前であっても参加を取りやめもらうことがある | | | |
| | 本人 | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | 不参加 | 担 任 |
| | 家族 | 発熱等の風邪症状があり、感染が疑われる場合・不安を感じる場合 | 不参加 | |
| | | 養護教諭が問診・検温等の対応を行う。(参考:健康観察カード) 発熱あるいは風邪症状・倦怠感等がある場合は、早めに早退措置をとる 帰宅後に医療機関を受診することを指示する | ○別室・別行動・別食(ホテル待機) *本人が部屋に残り、他の班員が別部屋に移動する。 | 養護教諭 担 任 旅行会社 |
| | | 保護者に連絡を入れる。 | ○本人の状況、経過報告及び早退方法を確認する。 基本的に、自力で帰れる場合は生徒のみで早退させる。 | |
| 【留意事項】 発熱等の風邪症状がある場合は、早めに当該生徒の迎えを保護者に依頼し、基本的には以下の対応(太線内)はとらない | | | | |
| 宿泊中 | 宿泊先の発熱センター等の名称と連絡先を入れる | | ○別室・別行動・別食(ホテル待機) *本人が部屋に残り、他の班員が別部屋に移動する。 | 保健担当教諭 |
| | 指示された医療機関を受診する。(医療機関名 Tel) 「陽性」:入院または指定されたホテル隔離 「陰性」:本人の健康状態に留意しながら宿泊継続または早退 | | ○保険証、健康観察カード、携帯電話を持参する。 *結果が出るまでの待機場所(医師の指示に従う) | |
| | 保護者に受診結果と今後の対応について連絡を入れる。 | | ○車で迎えに来る際の留意事項・到着時刻等を確認する。 ○保護者が迎えに到着次第、引き渡しをする。 | 担 任 |
| | 同部屋の生徒の体調を把握する。 | | ○健康観察を徹底する。 | 担任・養護教諭 |
| | 濃厚接触者に指定されるかを管轄の保健所からの指示に従う | | | 担任・養護教諭 |
| | 家族 | 濃厚接触者と選定された場合 | ○結果が出るまで、「別室・別行動・別食」(ホテル待機) | 担任・養護教諭・ 旅行会社 |
| 月 日() 以降 | 【留意事項】 健康観察を継続して実施し、「健康観察カード」に記入し、提出する。(月 日()) | | | |
| | 本人 | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | 医師の診断を受ける。 | 担任 年次主任・管理職 ・養護教諭 |
| 家族 | 発熱等の風邪症状がみられる場合 | 医師の診断を受ける。 | | |